

犬山教育シンポジウム

# 読解力向上のための取組

犬山市立東小学校

10月26日

**森川先生の講義を拝聴**

12月 2日

校内研究授業・研究協議

12月 7日

**森川先生の模範授業を参観**

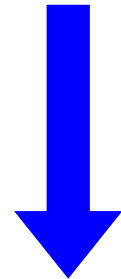
3月 3日

校内研究授業・研究協議

謎を見つける力  
問題をつくる力

+

証拠を見つける力  
証拠を使って解決する力



# 読 解 力

R S T 試験の読解

教科書の読解

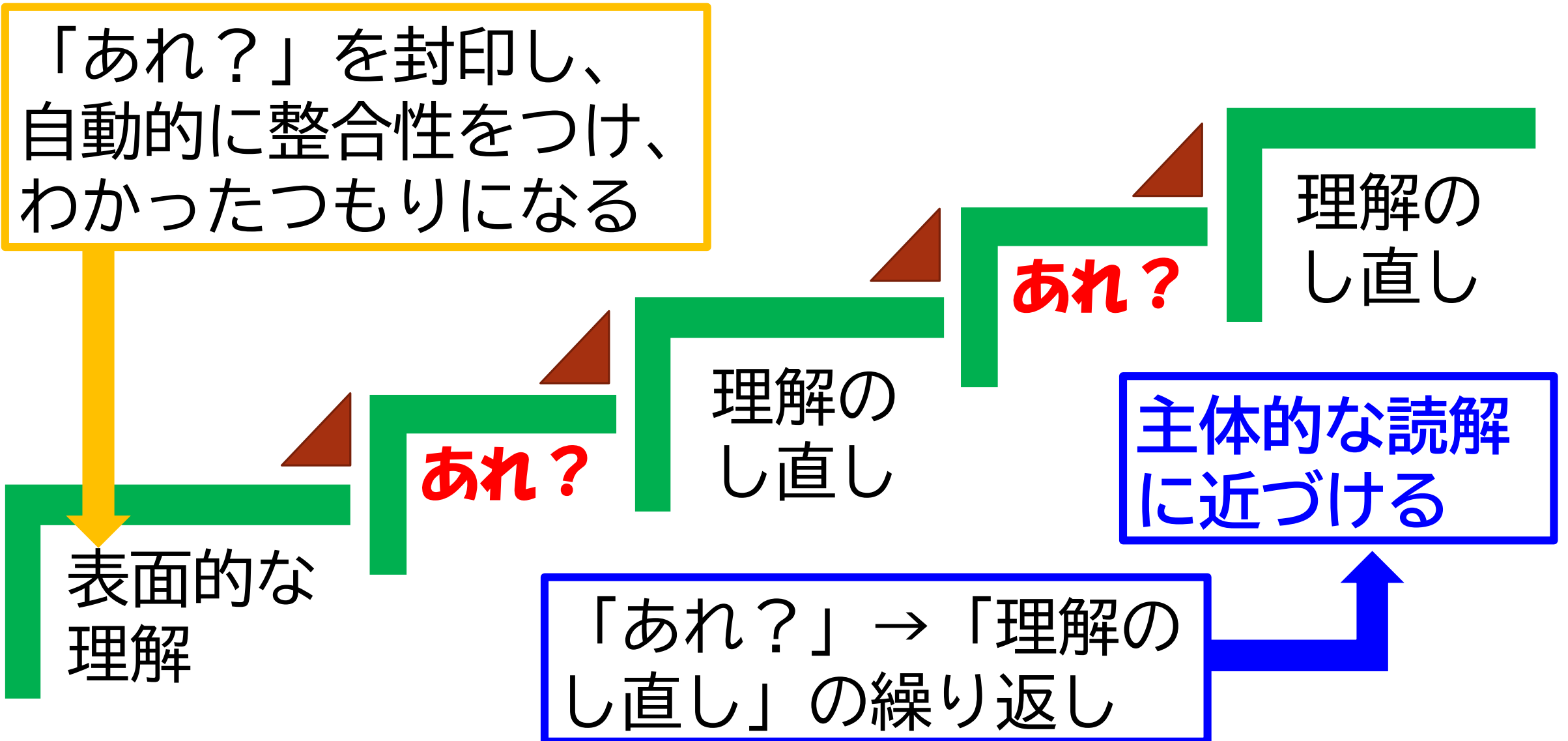
読解する問題・謎を**与える** (受け身な読解)

子どもが**自ら問題や謎**  
**を見つけ**、それを解決  
する授業をつくる

**主体的な読解**

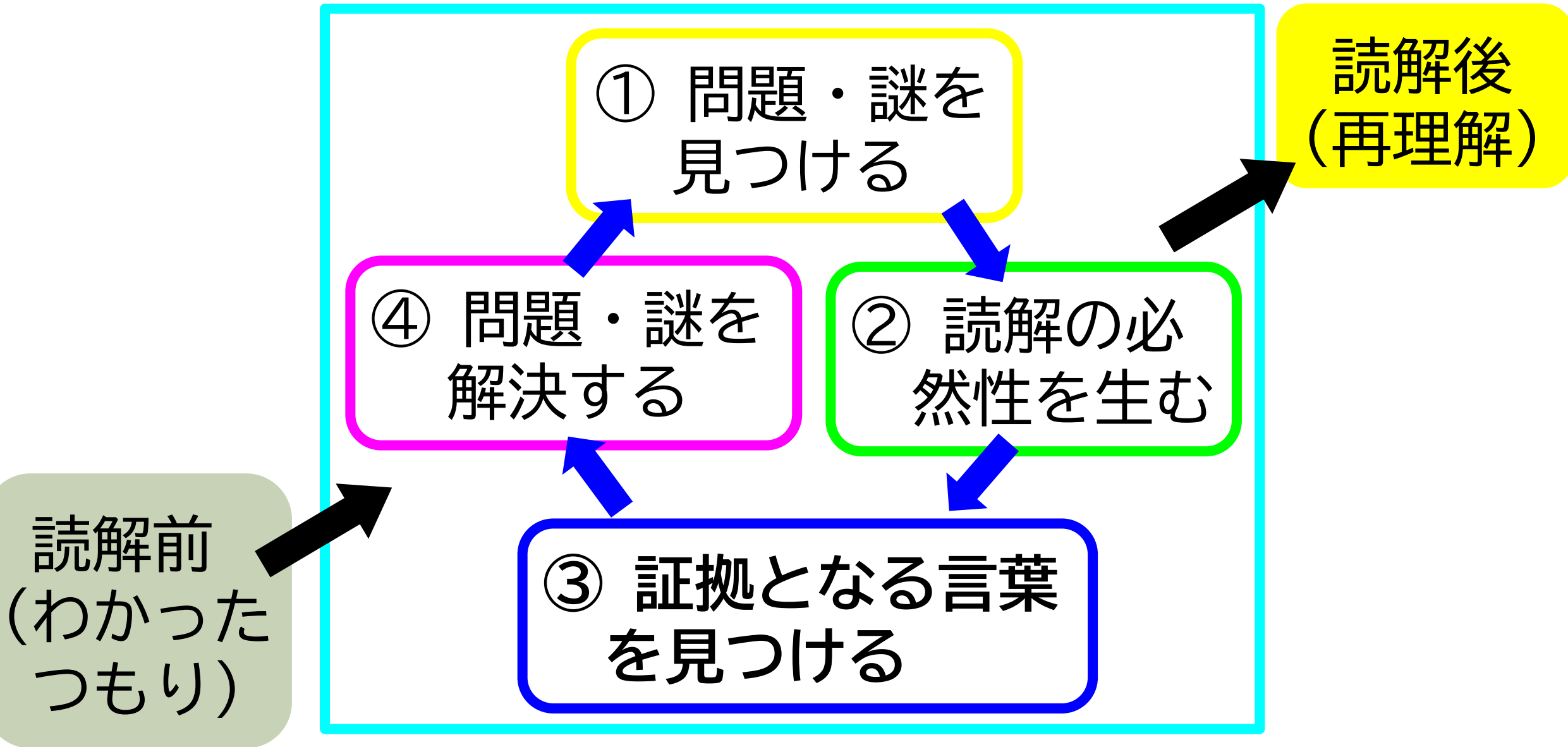
# 授業の過程

(森川先生の資料より抜粋)



# 授業の過程

(森川先生の資料より抜粋)



一つ一つの言葉に着目し、  
確かな読解力を身に付けた児童の育成

—国語科「物語文」「説明文」の授業実践を通して—

受け身の読解であったとしても

まずは

言葉に着目することに重点を置いた



## 着目した言葉の例

---

3年生 まいごのかぎ

「はっと気づいた」

4年生 プラタナスの木

「だまってすわり**こんだ**」 「立って**みた**」

5年生 大造じいさんとガン

「**再び**じゅうを下ろしてしまいました」

一つ一つの言葉に着目し、  
確かな読解力を身に付けた児童の育成

－正しく豊かに読み取る学習を通して－

## 単元の学習計画

- (1) 全文を通読し、感想や考えをもつ（1時間）
- (2) 場面ごとの設定を整理し、それぞれの場面の出来事をまとめる（4時間）
- (3) 物語にひそむ、ふしぎを豊かに読み取る（3時間）

第1時 ～全文を通読し、感想や考えをもとう～



物語にひそむ、  
ふしぎを見つけ  
出そう。

<白いぼうし 疑問集①>

- 松井さんはどんな人か。  
→もらってうれしいはずの夏みかんをぼうしに入れる。
- 夏みかんをぼうしに入れたのに、夏みかんのにおい残っているのはなぜか。
- 女の子はなぜ、松井さんをせかしたのか。
- なぜ6月に、20匹、30匹も、もんしろちょうがいるのか。

初発の児童の感想から、「疑問集」という形で児童から生まれたふしぎをまとめ、Googleドキュメントで可視化

<白いぼうし 疑問集②>

- ・女の子は、なぜいなくなったのか。
- ・女の子の正体は、白いちょうなのか。
- ・何が「よかったね。」「よかったよ。」なのか。  
→シャボン玉がはじけるような、小さな小さな声
- ・松井さんの、お母さんの夏みかんへの思いは何か。

## 第2時 ～ 第5時

～場面ごとの設定を整理し、それぞれの  
場面の出来事をまとめよう～

- 松井さんが、タクシーの中で、お客のしんしと夏みかんの話をした。
- 松井さんが車道のすぐそばに落ちていた、たけのたけおくんのぼうしを拾った。

第6時～第8時（疑問集より）

最後の場面にある会話文で、何が「よかったね。」  
「よかったよ。」なのか。

（教師）会話をしている人物達にとってうれしいことがあったはず

（児童A）物語の中で、うれしいこと？

（児童B）松井さんが、夏みかんをもらったこと

（児童C）もんしろちょうが、帽子からにげられたこと

（児童D）たけのたけおくんがちょうをつかまえたこと

女の子の正体は、もんしろちょうではないか。



## 具体的な実践例

# 児童の振り返り

ぼくは、白いぼうしを読んで女の子は多いかなんだろかなとおもいました。白いぼうしは、おもしろかったです。とくにふとった、おまわりさんのところですかというふとったをぶつにつけなくてもいいねふとったをつけているからです。

ぼくは、白いぼうしの学習白もとよして、ゆたかによめるようになりました。文や言葉がう、さくしゃの気もちを讀みとするのが、なるときのよつごとともおもしろかったです。また、ものがたりから、いろいろなことをそうろうしたいかなど思いました。

◎ぼくは白いぼうしは楽しかったです。なぜかというと、自分たちが考えたふしぎを全員でかい決できてすごく楽しかったです。だからこれからは一人でふしぎを見つけてそのふしぎを自分でかい決してみたいです。

# 成果と課題

## 成果

- ・ 教師が言葉に着目して教材研究を進めることができるようになった。
- ・ 児童が言葉に着目できるようになり、疑問をもてるようになってきた。

## 課題

- ・ 言葉に疑問をもつ児童がまだ少なく、受け身の読解が多い。
- ・ 言葉に疑問をもった後の、問題の解決まで至っていない。